

**製品名:** アセチルコエンザイム A カルボキシラーゼ  $\beta$  ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe21271

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、 $-20^{\circ}\text{C}$ で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

## 応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:4000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:227kD;Observed MW:265kD

## 抗原情報

遺伝子名	ACACB
別名	ACACB,Acetyl CoA carboxylase 2,ACC beta,ACC2,ACCB,AcetylCoA carboxylase 2,ACCbeta,ACC $\beta$ ,ACC $\beta$ ,
遺伝子 ID	32.0
SwissProt ID	O00763
免疫原	ヒトアセチルコエンザイム A カルボキシラーゼの合成ペプチド

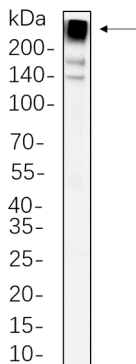
## 背景

細胞局在: ミトコンドリア。アセチル CoA カルボキシラーゼ (ACC) は、複雑で多機能な酵素系です。ACC はピオチン含有酵素であり、脂肪酸合成における律速段階であるアセチル CoA からマロニル CoA へのカルボキシル化を触媒します。ACC- $\beta$  は、マロニル CoA がミトコンドリアによる脂肪酸の取り込みと酸化における律速段階であるカルニチン-パルミトイル CoA トランスフェラーゼ I を阻害する能力を介して、脂肪酸の酸化を制御していると考えられています。ACC- $\beta$  は、脂肪酸の生合成よりもむしろ脂肪酸の酸化の制御に関与している可能性があります。2つの ACC- $\beta$  アイソフォームの存在を示す証拠があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

## 研究分野

-

## 画像データ



PC-12 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、膜をアセチルコエンザイム A カルボキシラーゼ  $\beta$  ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。